４　金銅花瓶　　１口　　　［有形文化財（工芸品）］

［所在地］　生駒郡平群町信貴山 2280 番地

［所有者］　朝護孫子寺

［法　量］　高 20.5 ㎝　胴径 13.6 ㎝

［時　代］　平安時代後期

［概　要］

朝護孫子寺に伝来する大型の亜字型花瓶。口から胴までを一鋳とし、胴の下部で腰以下を蝋付けし、轆轤挽きのうえ鍍金を施す。腰の丈が低く、堂々とした大きな胴に比して頸と腰がきつく締まった抑揚のある姿形である。口縁部の立ち上がりがやや上方に開き、台脚が末広がりになるのも古様であり、両界曼荼羅中に描かれる賢 瓶の形に近い。

本品の肩の張った胴や丈の短い腰、圏線をあらわさない簡素な頸や腰は、国内最古の亜字型花瓶とされる静岡県修善寺墓地出土品中の花瓶（平安時代）に類似する。伝世品では、兵庫県勝福寺所蔵・金銅密教法具（重文・平安時代後期）中のものに類似しており、本品の制作も平安時代後期に遡ると考えられる。